



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

12月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

乗り越え、次に向かう力

今年も、もう一年の終わり、12月になります。

さくらだこども園では11月になってから少しずつ、インフルエンザが流行り始め、感染者が増えたり減ったりを繰り返しながら11月を過ごしました。治っても体力の回復に日数がかかることもあります。12月には収まることを願うばかりです。

5歳児は12月6日の生活発表会に向けて合奏やお話・劇作りをしています。休みの友達のことと考えながら、どこまで決めようか、いないけれどもう決めないと次のことができないねと、その日いる幼児で進めています。大道具・背景作り、役ごとのセリフや動き方の相談など、いつもより少ない人数、今日その場にいない友達の思いをどうするのか、と大変さもありますが、それでも進めていける自分たちの力に自信がもてているように感じます。反対に、休み明けの子どもたちは登園時に少し不安げな様子が見られます。劇はどうなっているかな、知らないことが増えているのかな、などと心配があるからだと思います。すぐに様子が分かり安心して友達と一緒に過ごし始めるのですが、そこまでの時間が子どもにとってかなり高い壁と感じられることもあります。

壁がない方が安心で、気持ちよくぐんぐんと成長していくようにも思います。ですが、生活する中で何も壁に当たらない、というのは難しいと考えます。だからこそ、こども園では子どもたちが乗り越えることを支えます。何日か休んだ後の登園、劇の衣装が思ったように作れない、照れてセリフを大きな声で言えないなど、本人にとっての壁はいろいろです。でも、「壁は乗り越えられる」という経験がその後の生活に意欲的に向き合えることにつながると考えているので、教師は気持ちを支えながら本人と一緒に乗り越える方法を考えます。自分で乗り越えることも、友達や先生の力を借りて乗り越えることもあります。

今年はぜひお子さんと一緒に、それぞれ自分の一年を振り返ってみてください。今年乗り越えた壁は何だったのでしょうか。苦手な野菜を一口は食べるようになりましたか。やりたくないと思ったこともチャレンジしてみた、さらに面白さも感じたということがありましたか。大人は、自分のことと共に、子どもを支えて感じた幸せも、乗り越えた壁になるのでしょうか。どうぞ、新しい年もお子さんが次に向かう力を付けていく、よい年となりますように。

今年は保護者の皆様に園評価と第三者評価をいただいています。皆様からのご意見をいただき、これからもさくらだこども園は地域の中で、子どもたちの健やかな成長を支える園として次に向かっていきたいと思っています。



—今月の指導のめあて—

- 〈4歳児〉
 - ・自分の思いやイメージをもち、自分なりに実現することや、繰り返し取り組むことの楽しさを感じる。
 - ・鬼遊びやボール遊びなど簡単なルールが分かり、友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。
 - ・冬の自然に触れながら季節の移り変わりを感じたり、年末年始の行事を知って楽しみにしたりする。
- 〈5歳児〉
 - ・自分の考えやイメージを相手に分かるように伝えたり、友達の話をよく聞いて受け入れたりしながら、遊びを進めていこうとする。
 - ・自分のめあてに向かって繰り返し取り組み、楽しさや充実感を味わう。
 - ・年末年始の雰囲気を感じたり、行事の意味を知ったりし、楽しみにして過ごすとともに、生活に必要なことが分かり、自分のことを自分でする意識をもつ。